北満に於ける小麦と製粉工業

北滿製粉業の將來は果して如何現今に於ては不景氣に沈湎せる一般經濟界の余波を受けて休業者續出其の操業を繼續せる者も氣息奄々六月中旬に於て哈爾賓に於ては僅かに一晝夜三萬布度を生產するに過ぎざるの狀況にあり今其の原因を探究するに經濟狀況の思はしからざるの結果は販路を狹め購買力を減殺し更に原料高に加へて銀行の金融緊縮の爲めに流動資金の梗塞を來し休業者簇出を招致せり之の外賣掛代金の不回收を慮つての自發的販路縮小も關係す

經濟狀態が回復し引合を得るに至れば販路を擴張し市場を見出すは左程困難にあらざる可く南滿へ乘り出して亞米利加粉と競爭せんが爲には運賃の割戾の如き方法に依りて進出を容易ならしめ更に北滿の諸工業が共通の苦みと爲す高價なる石炭の廉價なる販賣に依りて生產費を低減せしむる等種々の便法を講せさる可からず生產費に關し滿鐵の援助爲し得べき点南北滿洲製粉會社の利益の比較と論じ殘せる問題は之を他日に讓る

（一九二三年七月）

北滿に於ける小麥と製粉工業終

一九〇二年第一滿洲製粉會社が大規模の都市計畫を以て着々基礎を築き數百萬の軍隊日に月に遞増しつつある露國來住民に對し食料を供給するの將來ある希望の下に松花江の邊りに其の煙を擧げしより其の好景氣に動かされ斯業者簇出せしも日露の戰役に一敗地に塗れて軍隊の引上に逢會し沈衰狀態に陷りしも辛くも操業を繼續し販路の擴張に汲々として月を閲みせしが爾來消長年あり大正八年に於ては俄に活況を呈し南滿へ大に進出せしが折柄東支鐵道の輸送能力が減殺せられ北滿粉の南下は非常に困難となりてより南滿市場の活氣に比し手を空しくして有利なる機會を逸するより外なかりき、又西比利亞方面の引合如何と云ふに是亦等しく鐵道の輸送力の不安と旱魃の爲松花江の減水に因る運航力の減殺とに依り大なる影響を蒙りたり

仰も南滿洲に於ける小麥の需要は可なり大なるものあり一九一三年長春に初めて裕昌源が機械製粉業を始めしより爾後斯業に手を染むるもの頻出し現今に於ては大連一、奉天一、鐵嶺一、開原一、長春六、吉林一、寛城子三合計十三工場にして其の一晝夜生産能力五十封度袋六九、八五〇袋なり、長春寛城子に工場多きは原料小麥を北滿に求むるに距離上便宜なるに依る、然りと雖も之等の製粉は屢原料高に災ひせられ奉天以南は亞米利加粉の勢力に犯さるることあり之等は孰れも滿洲製粉の生産費と原料高が亞米利加の豐富なる原料並に安價なる大量生産と低廉なる船賃に對抗し得さるに依る、前掲生産費の比較に依りて知り得るか如く比較的低廉なる生産費の南滿小麥粉にして近距離の奉天以南關東洲に於て到底

仝	六月	六月廿三日	三、二五
仝	七月	七月十四日	三、二五
仝	八月	八月廿五日	二、三〇
仝	九月	九月末日	一、三〇
仝	十月	十月末日	一、三〇
仝	十一月	十一月末日	一、五〇
仝	十二月	—	—
一九二三年	一月	一月十二日	二、〇〇
仝	二月	二月一日	二、〇〇
仝	三月	三月一日	二、二〇
仝	四月	四月一日	二、七〇
仝	五月	五月一日	二、二〇
仝	六月	六月一日	二、〇〇

第十節　北滿小麥粉の市場に於ける地位

諸掛左の如し（百「キロ」は六、一〇五布度）（金貨百留は日貨百〇三圓五十錢に換算）

	東支線			南滿線		
	運賃	料金	合計	運賃	料金	合計
大連	九五、五三留	三二、一五留	一二七、六八留	一六七、五八留	一二、七八留	一八〇、三六留
營口	仝	仝	仝	一四三、二八	仝	一五六、〇六

麬一布度當りの哈爾賓に於ける相場は一九〇八年に於ては最高廿一錢最低廿一錢一九二〇年に於ては最高三十五錢最低二十六錢一九二一年に於ては最高五十錢最低三十錢なり一九二二年一月より一九二三年五月に至る哈爾賓市場に於ける麬四布度の價格は（但麻袋無し）左の如し

調査月日		價格
一九二一年	一月十二日	二、五五円
仝 二月	二月十七日	二、八五
仝 三月	三月十七日	二、七五
仝 四月	四月廿一日	二、九〇
仝 五月	五月二十日	二、九〇

七五、二〇五担七、八九九、〇三六圓關東洲二七二、〇一八担一、〇一五、七七二圓其の他四〇担三一一圓なり而して關東洲よりの分に對しては北滿製粉工場の生産品がその一部を占むるを知る

哈爾賓發大連著數は一九二〇年度に於て二八、六一〇布度にして又安東着は三、三一九布度浦塩着一、五六〇布度なり

今浦塩港より輸出せられたる(大部分は北滿工場産出品と見做すを得べし)最近六個月の數量は四、二五六英噸にして敦賀清水神戸其の他日本諸港に仕向けらる

一九一八年より一九二二年に至る最近五ヶ年間に東支鐵道の該貨物取扱數量左の如し

(單位布度)

一九一八年	普通便	六〇四、四九七
一九一九年	普通便	四二一、六二八
	急行便	九五四
一九二〇年	普通便	三四七、九〇四
	急行便	一五、四三一
一九二一年	普通便	六五八、八六四
一九二二年	普通便	一、六九四、七六〇

大正十二年四月一日現在哈爾賓より大連、營口、兩港に至る麩一、八〇〇「キロ」(東支積載重量)運賃

更に哈爾賓産出のものにして一九二二年度に於て大連より輸出せられし數量は左の如し

（單位担）

外國	支那各港	合計	價額（海關兩）
一、五五一	一八、三一三	一九、八六四	四九〇、九七四

之を一九二一年の一〇三、八〇〇担四九〇、九七四海關兩に比すれば著しき減小なり

尙浦塩港よりは一九二一年、一九二二年を通じ二一年九月に於て僅かに三十二噸の歐洲輸出を見たるのみ

第九節　副生産品麩に就て

在哈廿三工場よりの麩生産能力は一晝夜二萬一千六百六十布度にして其の生産割合は小麥粉一布度生産に付粉七二%麩二一%なり而して南滿産の物に比し夾雜物多き欠点あり

其の生産品は近在に於て消化せられすして大部分は麻袋詰にて東支沿線又は浦塩大連兩港より日本に向けて輸出せられ家畜の重要なる飼料となる

日本に於ける麩輸入高は大正九年に於ては支那より一、五八四、八五七担八、九三五、六九七圓關東洲より一三七、〇四八担八一六、八五六圓其の他九、三八七担四一、三九四圓又大正十年度に於ては支那 二一、一

一九一九　普通便　六、三九九、八三六

急行便　一五八、六九一

一九二〇　普通便　七、七九一、二五二

急行便　八六八、一六〇

一九二一　普通便　七、三二〇、二五八

一九二二　普通便　五、〇八〇、九六二

今參考迄に大連、營口、安東、よりの南北滿洲產小麥粉の輸出數量を擧ぐれば　（單位担）

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
大連	一二七、一五三	五三、八三五	三一、五七四	六九、八六二	二六四、一六七
牛莊	四、八三六	一、二七六	五四四	二七、八七一	三七、五二四
安東	四一、一一八	八八、七六六	一〇九、一四三	八二、一四七	四五、一一〇
合計	一六三、一〇七	一四三、八七二	一四一、二六七	一七九、八八〇	三四六、八〇一

額五百萬布度が實際の輸出數量なり今東支の鐵道統計に依り輸出麥粉の仕向を見るに左の如し

年次	各站用	輸出數	合計（單位千布度）
一九一三年	一、二八六	三三〇	一、六六六
一九一四年	一、三八三	九三九	二、三五二
一九一五年	一、一八七	一、二四八	二、四六一
一九一六年	一、五六七	一、六六七	三、三七〇
一九一七年	一、五三九	三、五一三	五、〇六二
一九一八年	一、七五九	二、八三七	四、五七八
一九一九年	三、三三四	三、九九一	六、四〇〇
一九二〇年	二、四九三	五、二九九	七、七九一
一九二一年	一、九五五	五、五六五	七、三二〇

右表に依り其の輸出狀況を見るに一九一三年に於ては鐵道に依り輸出されたる數量は僅かに製產額の二割内外に過ぎさるも一九二一年に於ては其の輸出數量に於て格段の增加を見たり其の增加せる原因は東支鐵道に於て製粉業の保護政策を採りたるに依る

北滿產小麥の輸出經路は　一、後貝加爾　二、松花江黑龍江沿岸　三、沿海洲　四、南滿方面とす

一九一八年より一九二二年に至る五ヶ年間に東支鐵道にて輸送せられたる麥粉數量は　（單位布度）

一　九　一　八　普　通　便　四、五九八、三六六

東支鐵道に依りて輸送せられたる一九一三年より一九二一年に至る麥粉數量左の如し

（單位英噸）

年次	大連向	浦塩向
一九一三	二〇、〇七九	一二七
一九一四	一四、二三三	一、〇三一
一九一五	二六、三三二	四、五五四
一九一六	三五、四八八	二、〇〇〇
一九一七	四七、七九五	七七〇
一九一八	五三、一二六	九、六七八
一九一九	六四、〇〇〇	三、〇〇〇
一九二〇	三三、〇〇〇	四、〇〇〇
一九二一	七七、〇五六	七・一二〇

尚當地日本商業會議所の調査に依れば北滿各製粉工場に於て每年製造せらるる麥粉數量は平均一千二百萬布度にして其の內三分の二は東支鐵道にて輸出され殘り三分の一は工場所在地に於て消費さるるものとす而て輸出數量八百萬布度の內二百萬乃至二百五十萬布度は東支沿線にて消費さるるを以て之が殘

一面坡	一五七、三八	八六、九三	四一、一八	八六、九三
海林	二三〇、五八	一二三、五三	七七、七八	一二三、五三
雙城堡	八二、三五	四三、九二	三六、六〇	四三、九二

附帶費	小口扱	貨車扱
驛費	一二、八一	九、一五
積込料	三、六六	三、六六
交通事務費	四、五八	二、七五
支線費	四、五八	二、三〇

備考　長春驛よりの滿鐵收得額は麥粉及穀粒（精製したるもの）に對しては小口扱三級及貨車扱三級率により及麩に對しては小口扱四級率により計算す

更に大連神戸間大坂商船會社の船賃は（七月二十八日現在）四十才一米噸即九〇七、一八四、八六「キロ」に付三圓八十錢更に大連橫濱間は一担即六〇、四五三「キロ」に付二十五錢なり

第八節　麥粉の輸出數量

第七節　小麥粉運賃

舊來麥粉の運賃は浦塩向は大連向より一米噸に付三圓三十七錢高かりしも最近大連向を値下せるため其の開き一層大なるに至れり今金貨留を壹圓參錢五厘として計算せる一布度當り哈爾賓より浦塩及大連向の運賃諸掛左の如し

	鐵道運賃	諸掛	關税	合計	一米噸
大連	二四、〇三錢	八、五五錢	—	三二、五八錢	一八、〇四錢
浦塩	二九、五〇	七、六六	—	三七、一六	二〇、五八

更に各驛より南滿各海港に至る運賃諸掛左の如し（單位百瓩金貨哥）

下記驛より寛城子驛に至る	小口扱	貨車扱		
	麥粉穀粒精製したるもの及麩	穀粒精製したるもの及麩	大連營口安東著麥粉	大連營口安東以外の各驛著
フリヤンルジ	二〇七、七一	一一二、五五	六六、八〇	一一二、五五
哈爾賓	八四、一八	五八、〇七	七、三二	五三、〇七
舊哈爾賓	八八、七六	五四、九〇	九、一五	五四、九〇

一九二二年	五月	一八、〇〇	一七、五〇	一五、三〇	一三、五〇	四、五〇	四、五〇	三、五〇	五月二十日
仝	六月	一六、二五	一五、〇〇	一二、六〇	一二、五〇	四、〇〇	三、五〇	三、二〇	六月二十三日
仝	七月	一六、〇〇	一四、五〇	一三、五〇	一一、五〇	三、九〇	三、四〇	三、一〇	七月十四日
仝	八月	一四、五〇	一三、二五	一二、二五	一〇、〇〇	三、六五	三、一五	二、九〇	八月廿五日
仝	九月	一一、〇〇	一〇、〇〇	九、二五	八、一五	三、〇〇	二、六〇	二、四〇	九月三十日
仝	十月	一一、四〇	一〇、六〇	一〇、三〇	八、七〇	二、七五	二、四五	二、二五	十月三十日
仝	十一月	一一、〇〇	一〇、二〇	九、七〇	八、三〇	二、七〇	二、四〇	二、二〇	十一月三十日
仝	十二月	一三、二〇	一二、三〇	一一、五〇	一〇、四五	三、五〇	三、三〇	三、〇五	十二月卅一日
一九二三年	一月	一二、[illegible]〇	一一、七五	一一、〇〇	一〇、〇〇	三、三五	三、一五	二、九五	一月廿六日
仝	二月	一三、〇〇	一二、二五	一一、〇〇	一〇、〇〇	三、三〇	三、一〇	二、八〇	二月廿三日
仝	三月	一二、二五	一一、五〇	一〇、二五	九、〇〇	三、二五	二、九五	二、七〇	三月三十日
仝	四月	一二、〇〇	一一、〇〇	一〇、〇〇	八、〇〇	三、二〇	二、九〇	二、六五	四月廿七日
仝	五月	一二、〇〇	一一、〇〇	一〇、〇〇	八、五〇	三、二〇	二、九〇	二、六五	五月三十日

右の内一布度十五フント入は輸出向のものなり目下は採算上到底引合を見さるの状況にあり

一九一六年	九八	九二	八〇	七八	七〇	七七	七〇	七二	六九	八五	八九	八〇	八〇、一
一九一七年	八二	八二	八九	九二	一、〇〇	九一	八二	一、二六	一、〇九	八五	九八	一、一三	九六、〇
一九一八年	一、〇五	一、二四	一、〇一	八九	一、一三	八八	八六	一、〇九	一、一六	九一	七一	七二	九七、一
一九一九年	七三	六九	五七	五六	四九	四九	五八	七二	七四	九四	一、二〇	一、〇九	七三、三
一九二〇年	一、一八	一、三三	一、二五	一、〇六	一、〇一	一、〇五	一、二三	一、一六	一、三〇	一、二七	一、〇九	七七	一一四、一
一九二一年	七八	九三	一、〇三	一、〇〇	九八	一、一四	一、二五	一、三四	一、六四	一、七六	一、六八	—	一二六、四

更に一九二一年十二月より一九二三年五月に至る相場を稍詳細に窺ふに

年次	月別	五布度入 一等品	五布度入 二等品	五布度入 三等品	五布度入 四等品	一布度一五フント入 一等品	一布度一五フント入 二等品	一布度一五フント入 三等品	調査月日
一九二一年	十二月	一六、〇〇円	一五、五〇円	一四、三〇円	一三、六〇円	四、二五円	三、九五円	三、六〇円	十一月二十五日
一九二二年	一月	一七、三五	一六、七五	一五、二五	一三、六〇	四、六五	四、三五	四、〇〇	一月十二日
仝	二月	一八、七〇	一八、一〇	一六、二五	一四、八〇	五、二〇	四、六〇	四、二五	二月十七日
仝	三月	一七、八五	一七、三〇	一五、二〇	一三、六五	四、六五	四、一〇	三、八五	三月十七日
仝	四月	一七、七〇	一七、二〇	一五、〇〇	一三、一〇	—	四、五〇	—	四月二十一日

第六節　麥粉相場

麥粉相場は世界的主要食料品たる原料小麥が其の相場の變動甚たしきより從て又騰落大なり一九一〇年より二三年六月に至る哈爾賓市場に於ける相場左の如し（一布度單位錢）

年次＼月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	年平均
一九〇七年	—	—	—	—	—	—	七四	六七	六九	六六	六二	六一	—
一九〇八年	六三	七二	七三	六九	七〇	七二	七四	七一	六九	五六	五八	六二	六七、四
一九〇九年	六六	七四	七四	八〇	八四	八五	八〇	六〇	五九	五九	五九	六三	七〇、三
一九一〇年	六六	七一	六三	六三	五七	五一	五二	六九	六六	六二	六三	六四	六二、三
一九一一年	六七	六八	六四	六三	六一	六一	六八	七〇	七七	七六	七七	七九	六九、三
一九一二年	九七	一、〇〇	一、〇二	一、一六	一、二四	一、一三	九〇	一、〇六	一、〇三	一、〇一	九九	九四	一〇三、七
一九一三年	九八	一、〇二	九六	九六	九八	一、〇八	一、〇五	八九	八三	八二	八四	八一	九二、四
一九一四年	八一	七五	七四	七〇	六九	六八	七三	七六	六六	六〇	—	七五	七二、〇
一九一五年	七五	九二	九一	八七	九二	七九	六五	七五	七八	八四	一、〇四	九四	八四、六

麥粉生産率は一布度に付七三、五四％にして麩は二二、五九％「ロス」は約四％なり南滿に於ける生産率は麥粉七二％麩二一％「ロス」七％なり

第五節　品質

北滿産麥粉は水分を含むこと比較的に多く三等品以下にありては長期の輸送に適せず從て輸出には不向なりと雖も其の麵麭原料としての價値に至りては粗蛋白質を含むこと多く其の量四五％乃至五〇％に及び露國産には一歩を輸するも日本、濠洲、米國、英國、獨逸産の物に比して遙かに優位を占む今露國一技師の分析の結果を擧ぐれば左の如し

等級	水分	含窒素物	脂肪分	糖分	護謨質デキストリン	澱粉	灰分
一等品	一三、二八	一〇、一四	〇、九〇	二、四〇	三、二四	五九、三三	〇、五〇
二等品	一三、四〇	一〇、〇八	一、三〇	二、二五	三、一七	六八、八七	〇、四〇
三等品	一三、九五	九、八四	〇、八六	二、三八	三、四八	六九、五二	〇、四六
四等品	一三、六〇	一一、〇六	一、二八	一、七八	四、〇三	六六、六三	〇、九五
五等品	一三、三〇	一〇、九五	一、一九	一、八四	四、一二	六六、七二	〇、九七

金を支拂へり一布度一五「フント」入袋は二十三錢を支拂ふ

更に又人件費に就て南北滿洲製粉工場を比較するに北滿は南滿に比して多額を要す即左の如し

（一ケ月給料）

職工別	哈爾賓製粉工場ガ支拂ヒツツアル給料	寛城子製粉場ガ支拂ヒツツアル給料
一、機關士	三〇〇円	一二五円
二、製粉工	三〇〇	六〇
三、機關士助手	一五〇	三五
四、油差	二五	一七
五、ロール係	三〇	一七
六、篩係	四〇	三五
七、粉詰係	四〇	一六
八、掃除夫	一	一〇
九、油差（機械部）	三〇	一七
一〇、火夫	三〇	一七
合計	九六五	三四二

今南北滿洲製粉工場の各生産費を比較するに左の如し

費目	南滿	北滿
一、燃料	四、七〇〇（錢）	六、〇〇〇（錢）
二、油類	二、七五〇	〇、四七〇
三、諸材料	〇、七六八	〇、六五〇
四、麻布袋	一三、八一七	一二、三五〇
五、職工給料並人夫賃	四、九三三	一〇、六〇〇
六、機械建築修繕費	〇、八五九	一、四五〇
七、税金及保險	〇、八一七	四、〇〇〇
八、償却費	二、五〇〇	二、五〇〇
合計	二七、六二九	三七、八二〇

上記の表に依れば原料一布度を製粉する爲めに要する費用は北滿側は南滿側より十錢一厘八毛一糸だけ多額を要することとなる

税金に關して哈爾賓製粉工場は市廳、支那官憲其の他より多額の納税を徵せられつつありて永勝公司即松花江製粉會社の如き全体に於て二萬五千圓を課税せられつつありて壹布度に付五錢八厘九毛の諸税

裕順和	仝	仝	五〇〇	五〇、〇〇〇	一九〇四
孫顏卿	仝	海林	二五〇	三〇、〇〇〇	一九一〇
廣元吉	仝	葛拉爾吉	四〇〇	一〇〇、〇〇〇	一九一二
双合盛	仝	双城堡	五〇〇		
中華	仝	巴彥	五〇〇		
ウリーネス	露國人	安達	五〇〇		
合計	九工場		三、六五〇	四二〇、〇〇〇	

第四節　生產費（南滿との比較）

原料壹布度を粉にするに北滿側に於ては三十七錢八厘二毛の生產費を要し南滿の二十七錢六厘三毛九糸に比し遙かに多額を要す即北滿側に於ては燃料機械油の高價に災ひせらるるが故なり而して最近に於て撫順炭壹布度三十二錢にして原料十布度を粉にせんがためには一布度二八を要す（哈爾賓工場一日石炭使用量一〇、一七〇布度操業日數を三百日として一年三、〇五一、〇〇〇布度なり）而して「マシン」油は單價五圓五十錢「シリンダー」油八圓五十錢にして原料一布度に對して四厘七毛を要す

ブザノフ	仝二十五萬元	二、〇〇〇	六〇〇	三、〇〇〇	仝 一五〇	露支合辨	龍印	
廣大	仝七萬元	七〇〇	二四〇	一、〇〇〇	仝 五〇	仝	三星象印	一九二一
震大	仝三十萬元	二、一〇〇	七〇〇	三、〇〇〇	仝 二〇〇	支那人	天官印	一九二一
滿洲製粉(八區)	金五百七十五萬元	四、九〇〇	一、七〇〇	七、〇〇〇	仝 三五〇	日本人	孔雀印	一九一九
仝第一(舊哈)		四、二〇〇	一、四〇〇	六、〇〇〇	仝 四〇〇	仝	象汽車印	一九一三
仝第二(舊哈)		二、八〇〇	九五〇	四、〇〇〇	仝 二三〇	仝	三國印	

註　哈爾賓に於ける右二十三ヶ所の製粉場に於ける原動力は概ね「スチームエンジン」にしてその一馬力は原料約貳十布度を生産する能力あり

第二、東支沿線及奥地

名稱	經營者	所在地	一晝夜生產能力(五十ポンド)	資本金	設立年月
永榮	支那人	呼蘭	三五〇	大洋五〇、〇〇〇	一九一三
永遠	仝	阿什河	四〇〇	五〇、〇〇〇	一九〇八
長寧	仝	寧古塔	二五〇	四〇、〇〇〇	一九〇八

カサトキン	仝 六十萬元	二,四五〇	八四〇	三,五〇〇	一七五	露人	鷹、藍二星	
安裕	仝 十萬元	一,四〇〇	四八〇	二,〇〇〇	一〇〇	支那人	藍二星印 飛行機印	一九一八
廣信	仝 十萬元	一,〇五〇	三六〇	一,五〇〇	七五	仝	紅星印	一九一九
厚康	仝 八萬元	七〇〇	二四〇	一,〇〇〇	五〇	仝	國旗印	一九二一
天興福	仝 四十萬元	五,六〇〇	一,九〇〇	八,〇〇〇	四〇〇	仝		仝
東興恒	仝 貳十萬元	二,一〇〇	七〇〇	三,〇〇〇	一五〇	仝	双旗印	
福田組マルクス	金 六萬元	一,〇五〇	三六〇	一,五〇〇	七五	日露合辦	日露支三國旗印	一九一一
永勝公司	金三十五萬元	一六,五〇〇	五,五〇〇	二四,〇〇〇	スチムエンジン 一,二〇〇	露人	人物ト麥穗印	一九〇四
黑河火磨	仝 二十五萬元	二,〇〇〇	七〇〇	三,〇〇〇	仝 一五〇	支那人	麥穗印	一九一九
東興火磨	大洋四十萬元	三,一〇〇	一,一〇〇	四,五〇〇	仝 二二二	仝	三鷄印	一九一三
廣源盛	仝 十五萬元	二,〇〇〇	七〇〇	三,〇〇〇	仝 一五〇	仝	鹿印	一九〇〇
義昌泰	仝 十三萬元	一,七五〇	六〇〇	二,五〇〇	仝 一二五	仝	馬印	一九一八
成發祥	仝 十萬元	一,四〇〇	四八〇	二,〇〇〇	仝 一〇〇	仝	太陽印	一九〇八
成泰益	仝 十萬元	一,四〇〇	四八〇	二,〇〇〇	仝 一〇〇	仝	地球印	一九一三
双合盛	仝 三百萬元	三,一〇〇	一,一〇〇	四,五〇〇	仝 二二五	仝	小鳥印	一九一一

現在北滿にある製粉工場は哈爾賓二十三工場東支沿線に九工場合計三十二工場前者の一晝夜生產能力は五十封度袋にて四十一萬一千百五十袋其の資本金合計二百九十三萬圓餘（內不詳のもの三工場を含む）後者は三千六百五十袋資本金大洋四十二萬圓（內不詳一を含む）なり南滿の十三工場二萬五千五十袋に比し格段の差あるを知るべし　尙東支沿線以外には齊々哈爾寧古塔にあり國籍別に見るに支那人工場二十一露西亞人八、共同のもの二、日本人三工場なり又之に使用する原料小麥は一ケ年千六百萬布度にして固定資本として投下されたる總額は千二百萬乃至千五百萬圓流動資本を之に加算するときは千八百萬圓乃至二千萬圓なり

第三節　會社名、經營者、所在地、一晝夜能力、商標、資本金、設立年月、動力

第一、哈爾賓

會社名	資本金	製品生產力	副產品生產力（フスマ）	原料使用高	動力馬力	經營者	商標	設立月日
東亞火磨	大洋十萬元	布度 七〇〇	布度 二四〇	布度 一〇〇〇	五〇	支那人	國旗印	
永興順	仝 五萬元	五六〇	一九〇	八〇〇	四〇	仝		

粉工場の簇立を見たり

松花江の邊りに始めて製粉の煙を擧けしは一九〇二年資本金三十八萬四千留を以て露人の經營せる第一滿洲製粉株式會社なり　爾後哈爾賓並に東支沿線に人口の增加するに從ひ愈々工場の設立を見て創立後十年を經過せる一九一二年に於ては在北滿製粉會社の生産高は五百八十萬布度之が原料たる小麥消費高七百八十萬布度に達せり　日露の戰役に「ロマノフ」王朝の東方覬覦策は一頓挫を來せしと雖も哈爾賓は之より軍事的中心地より變して經濟的中心地となり豊饒なる北滿より産出する小麥を原料として製粉業勃興し其間景氣に變動ありしと雖も竟に哈爾賓二十三工場東支沿線九工場の設立を見たり

南滿に於けると同しく一九一九年に於て殊に頻出せるが之は即一九一九年の後半期より一九二〇年の前半期に懸けての需要に對する供給不足より茲に小麥粉の昻騰と共に採算の引合を得て始めて海外に迄輸出する好況を呈し斯業の隆盛を見たる爲めなり斯くて各工場共全能力を擧けて製産に從事し斯業の前途洋々たるものありしが一九二〇年後半期よりは北滿地方に於ける小麥の不作に加ふるに亞米利加に於ける豊作と船賃の低落に依る安價なる麥粉の南滿流入に依り斯業不振を極め休轉を爲すもの過半數に及びしが一九二一年に至りては終に全數の三分の二の休轉を見るに至り此の不況時代は今猶繼續しつゝあり

第二節　北滿に於ける製粉業現況

更に磨房の收支概算を窺ふに

收入

麥粉	二百斤	價格百十吊（一斤時價五百五十文）
麸子	四十斤	價格十吊（一斗時價五吊一斗は約二十斤）
合計		百二十吊

支出

小麥	八斗	價格　九十二吊（一斗十一吊五百文）
職工	一人一日	價格　四吊（一ヶ月八十吊外に食料四十吊）
驢		十二吊
合計		百〇八吊
差引利益		十二吊

第二、機械製粉業の發現

如斯磨房の存在によりて小麥粉の需要を充し居たりしが一八九六年露國が一路南下を欲し東亞の風雲を捲き起さんとして數百萬の大軍を送り一寒村哈爾賓を之が根據地・策源地となすや茲に小麥粉の必然的需要を喚び從來存在せる磨房に依る家內的小企業より一歩を進めて大量生產を爲し得る火磨即機械製

第一號	二、七四	二、九五	六六、七四	一、四五	四、一三	〇、九八
第二號	一〇、七六	三、五〇	六七、〇四	一、九九	四、〇一	一、〇五
第三號	三、五三	一〇、九六	六七、三	一、二六	三、九〇	〇、九八

而して右製粉中には麩、大豆、玉蜀黍、粟等の穀粉及木灰、白粘土等を含有すること多量なり此等の混和物に付其の含有割合を調査せるが其の結果は次表の如し

見本番號	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
小麥粉	八二%	八〇%	七五%	八五%	六八%	六〇%	六二%	五八%	六〇%	九〇%
玉蜀黍粉	一八	—	一〇	—	二〇	三〇	八	四二	八	—
粟粉	—	—	五	—	一〇	—	二〇	—	—	—
大豆粉	—	八	—	—	—	—	五	—	一二	—
糠	—	四	五	—	二	—	—	—	六	—
灰粘土	—	八	五	一五	—	一〇	五	—	一四	一〇

支那人は古來小麥粉を或は麵に製し或は肉、野菜と混食し高粱の下層社會に欠く可からさる食料品たると同一程度に於て必要視せらる從て製粉業は滿洲に於ける重要なる家内工業にして何地に往くとして之を見さることなし斯かる組織の下にある製粉工業は磨房と稱し農家が其の閑期を利用して之を營むは勿論多數家畜を飼養せる所に於ては其の飼料たる麩を得ることと粉を得ることの二理由より之を營む外日常多量を消費する飲食店、旅館等に於て副業的に營まる

露人が哈爾賓に機械製粉を始めても依然相當の勢力を有せしのみならず露領に輸出して露人の需要に應せしこともあり現在に於ても機械製粉に比して品質粗惡色澤純白ならさるも一種の風味を有するを以て舊習を重んじ支出を警むる一般支那人間には侮り難き勢力を有す

磨房は企業小規模にして燒鍋油坊等に比し資本を要すること少なく僅か數名の勞働者と一、二頭の驢馬とを使役して一日原料小麥三、四石を以て千斤内外の小麥粉を製出す　各地到處存在すと雖も呼蘭城伯都納、北團林子、双城堡等に於ては殊に隆盛なりとす各地磨房を通觀するに概一盤に付一日消費の原料約我が七、八斗にして之より百三十五斤の粉と三十六斤の麩を得るなり

磨房製小麥粉は品質に於ては到底機械粉の比に非ず今東支鐵道會社にて分折せる結果を見るに

見本番號	水分	含窒素物	澱粉	脂肪	護謨質デキストリン分	灰分

りの米食に代ふるに他の食料品を以てせさるべからず現在に於て多量の米粉が輸入せらるるは明かに此の事實を語る。前掲大連並に浦鹽の輸出數量に依りて日本か北滿小麥に對し有望なる華客たることを知り得べし唯日本の注文たるや歐洲の場合と同じく一定不變なりと云ふべからず盖相場の騰落と他地産との價格の比較運賃其の他の經濟事情に全く左右せらるるが故なり

北滿小麥の確固たる根據と云ふべきは依然として北滿、南滿、極東露領なり、從來滿洲小麥は沿海洲黑龍洲及後貝加爾洲の東部に供給され一九一七年には遠く「イルクーツク」に達せしことあり鐵道運賃にして低率ならんには貝加爾湖を越へて進入することも必ずしも難事にあらさるべし、盖極東西比利亞に於ける小麥の生産高は大約二千九百六十萬布度需要高四千三百八十九萬布度其の不足額二千四百二十八萬布度にして北滿洲より六百萬布度餘以上を輸入すればなり

之等の點より見て北滿の小麥栽培は可成有望なるものなりと云ふを得べし

第二章　北滿洲に於ける製粉業

第一節　發達の課程

第一、在來の磨房

銷塲稅は估併とも稱せられ賣買稅なり斗稅は生産稅にして從價に依らず申告の石數によりて吉黑兩省共同一率なり出境稅は省外輸出稅にして貨物か兩省に互り輸送さるゝ塲合は銷塲稅と共に各省每に徵稅せらる其の他地方稅とも稱すべき雜附加稅を徵する處あり歐洲方面の小麥輸入國に於ては小麥に對しては輸入稅を徵收せず唯北米合衆國に於ては小麥の輸入に對しては一「ブッシェル」米弗〇、三五弗即ち一布度に付四十四哥を課す

第七節　小麥輸出の將來

年々其の數量を增加し其の品質に於て優秀なる北滿に產小麥は北米合衆國加奈太亞爾然丁濠洲其の他の一年平均收穫四十億布度に對し九牛の一毛に過ぎず而して北滿小麥か世界市場に地步を占めたるは上述の如く全く隅然の機運に依るものにして現今に於ては中止の狀態に近きか如しと雖も將來全く輸出の望なきにあらず殊に目下「アメリカ」粉を大に輸入する日本並に南支に對しては殊に有望なり、然りと雖も大豆の塲合と異り滿洲小麥の收獲並に價格が世界市場に於ける大取引並に價格に影響を及ほすことは到底不可能の問題なり歐洲市場に於ける北滿小麥の將來に就ては大なる期待を爲し得さるに似たりと雖も日本市場に對する將來に就ては有望なりと云ふを得べし

即ち年々六十萬の人口過剩に苦しみ今や「マルサス」の所論其の儘に糧食危機に脅さるゝ日本は古來よ

（一二三ゾロ物單位金圓）

月別	價格	調査月日
一月	一、二八	一月二十六日
二月	一、四一	二月二十三日
三月	一、一五	三月十三日
四月	一、二一	四月二十七日
五月	一、一〇	五月三十日

第六節　小麥に對する課税

北滿特產物なる穀物の課税方法に就ては海關に於けるか如く正確なるものに非らず一般規定ありと雖も實際に於ては各地税局其の率を異にし課税單位に異同あり又人に依りて差別ありと雖も三種の課税適用せらる

第一、銷場税　黑龍江省從價の二分二厘　吉林省同三分

第二、斗　税　吉黑兩省とも毎石大洋十四步

第三、出境税　黑龍江省從價の二分二厘　吉林省從價の三分

右表に依れば東支東部沿線にある寧古塔産物最も品位高し北滿産小麥は大凡一一四「ゾロ」より一三五「ゾロ」の間に在るを知り得べく哈爾賓の先物取引に使用さるる小麥品位は一二〇「ゾロ」輸出向は一二五「ゾロ」なり

品質如斯く優良なりと雖も大豆其の他の穀物と同じく夾雜物多き欠点あり

第五節　哈爾賓に於ける小麥相場

（壹布度當り單位錢）

年度	最高	最低
一九一〇	六八、五	五〇、五
一九一一	七八、五	六一、〇
一九二〇	一二三、〇	七七、〇
一九二一	一七六、〇	七八、〇

今此の相場を見るに變動の大なるを見出し得べきが之は時勢の進展に伴ふ經濟狀況の變遷需給關係其の他經濟關係の齎す相場の騰落（世界的食料主要たる關係上世界的の影響を蒙ること多し）以外に貨幣相場の變動を受くること甚たしきに依る

本年一月より五月に至る最近五個月間に於ける哈爾賓小麥一布度當り月別相場を示めさんに

粗纖維	二、九〇	二、一三	一、七〇	二、九〇	〇、八三	二、七九	二、九〇
灰分	一、六七	一、九三	一、七九	一、六七	〇、六三	二、一三	二、〇四
分析者	獨逸ケーニヒ	仝	仝	仝	日本内務省衛生試驗所	滿鐵中央試驗所	仝

北滿產麥粉は本邦種か膠質と粘氣とに富み麵類及醬油の製造原料には適するも麵包製造には不適なるに反し頗る美味にして之れに北米產麥粉を混ずるときは更に味良しと云ふ

更に又露國獨逸墺匈國等に於て小麥品位査定に用ひらるる「ゾロ」衡を以て北滿各地產の小麥の品位を見るに（單位ゾロ）

產地	一九二〇年	一九一九年	一九一八年
齊齊哈爾	一二〇—一三二	一一五—一二五	一二〇—一二三
安達、哈爾賓	一一四—一三二	一二〇—一二八	一二〇—一二三
阿什河	一二四—一二五	一二〇—一二五	一二〇—一二五
烏吉密	一二三—一三二	一二〇—	一二〇—一二五
寧古塔	一三〇—一三五	一二六—一二八	一二五—一三五
南部線產	一三〇—一三二	一二〇—一三二	一二一—一三〇
伯都納產	一二五—一二六	一二二—一二五	一二三—一二七

船荷証券に對する金融利子（年八分九十日分）　二、六〇

歐洲到着港埠頭諸掛　二、五〇

合　計　七五、一七

一九二一年末に於て米國物小麥の倫敦に於ける相場は一封度三磅十志即ち一布度一留七十四哥なりき從て滿洲産の小麥は哈爾賓渡し一布度九十八歩八厘三毛以下の場合にのみ倫敦に市場を見出し得べし

第四節　北滿産小麥の品質

北滿産の小麥は露國産のものに次で優良にして「グルーテン」の含有量頗る多く從つて食用に供して美味なり即北滿産麥粉には其の四五乃至五〇％を含有せるに反し日本産麥粉は三三％米國産二七％如奈陀産四〇％なり

今各國産小麥分析表を揭出すれば左の如し　（哈爾賓日本商業會議所調）

事項＼産地	英國産	獨逸産	米國産	露國産	日本産	大連産	北滿産
水分	一三、三七	仝	仝	仝	一三、一五	一三、四八	一三、三五
粗蛋白質	一〇、九九	一〇、九三	一一、六〇	一七、六五	九、四五	一六、六七	一七、六〇
粗脂肪	一、八六	一、六五	二、〇七	一、五八	一、三二	一、五五	一、八〇

長春積換料	〇、八三	—
大連取卸料	〇、二九	—
大連船積料	〇、五二	—
驛費	一、一五	〇、六〇
合計	六、一六	七、九一

但哈爾賓發の場合は八區支線費〇、四五哥哈爾賓市税〇、二〇哥を加算せらる（上掲諸掛中保管料は三十日を計算せり）

依是觀之浦塩向は大連向に比し哈爾賓發の場合に於ては結局三、五八哥安く又安達發の場合に於ては八、四九哥安し

二、小麥の歐洲向費用（哈爾賓より大連經由英國へ至る東支調査局調）（一布度金貨哥）

大連迄の運賃料金埠頭諸掛	四一、一四
運送副狀に對する金融の利子（年一割二分として十五日分）	〇、六五
保險料（一、二五％）	一、六三
證明料（ロイドサー・バイアノ重量証明〇、五四 英國商業會議所品質証明〇、四一）	〇、九五
船運賃（一噸四〇志）	二五、八〇

八、諸掛内譯

料金別	大連	浦塩
積込費	〇、四九	〇、四〇
五分ノ一哥税	—	〇、二五
ホクラ通關手續費	—	〇、九〇
寛城子支線費	〇、三三	—
交通事務費	〇、三三	〇、二五
埠頭荷繰	〇、七四	三、三〇
埠頭保管料	一、〇一	〇、七五
埠頭秤量料	—	〇、一〇
布度税及會議所税	—	〇、二九
烏鐵商業部出張所手數料	—	〇、二五
浦塩海關手數料	—	〇、二五
船内人夫賃	〇、三五	〇、三七
代辨料	〇、一二	〇、二〇

之を大正十年の三、四四七、五三七担一二、〇三一、九〇四海關兩に比する甚だしき減少なり

第三節　大連浦塩両港小麥運賃諸掛比較

比較　（大正十二年四月調）（一布度當り金哥）

イ．浦塩

發驛	運賃			諸掛	關税	合計
	東支	烏鐵	合計			
哈爾賓管區	一八、二〇	七、七〇	二五、九〇	八、五六	三、一〇	三七、五六
安達	一九、六五	六、七五	二六、四〇	七、九一	三、一〇	三七、四一

ロ．大連

	運賃			諸掛	關税	合計
	東支	滿鐵	合計			
哈爾賓管區	七、六八	二二、〇〇	二九、六八	六、八一	四、六五	四一、一四
安達	一三、〇九	二二、〇〇	三五、〇九	六、一六	四、六五	四五、九〇

下ノ關	二九七
合計	四、六七三

二、大連、營口、安東、大東溝四港輸出數量　(單位擔、海關兩)

	數量	價額
大正六年	一八六、〇七七	四四三、五三九
大正七年	四八八、二六五	一、三七〇、七九〇
大正八年	一、〇九二、〇九三	二、九三三、一七一
大正九年	六、八四五、三二五	二二、七五三、八七六
大正十年	三、六三三、八七八	一二、七二二、九二五

更に大正十一年の輸出額は　(單位擔、價額海關兩)

	數量	價額
外國	二八、九一〇	一二、七二〇
支那各港	八三、〇七〇	二九〇、七四五
再輸出	六、五〇三	二四、七一一
合計	一五四、四二三	五四五、九三一

イ、大正十年度

横濱港	三三、〇七〇
武豊	四九六
熱田	七、四一九
神戸	一一、九六三
門司	二、〇四五
小樽	一、七六七
歐洲諸港	一、〇〇二
合計	五八、三六四

ロ・大正十一年度

歐洲	—
横濱	二五七
神戸	二、三一九
門司	八二七
熱田	九七三

年度	大連	浦塩
一九一七	九、九六六	二七一、〇七〇
一九一八	五七九、一〇五	七一、〇四二
一九一九	二四三、八六〇	六、五八六、四二九
一九二〇	三、六〇三、九〇五	一六、九八八、六八二
一九二一	四一四、九九八	一四六、三六三
一九二二	四一六、七六六	九九、五五〇

更に一九一八年より一九二二年に至る東支鐵道全線輸送數量を窺ふに　（單位布度）

一九一八	七、一六四、〇一五
一九一九	一一、一六五、六九三
一九二〇	二六、五九八、二四七
一九二一	二〇、一八六、四〇三
一九二二	八、二四九、六六二

次に浦塩、大連二港に就て其の輸出數量を觀察すべし

一、浦塩輸出數量　（大正十年十一年度　單位英噸）

合計　一、三七六、六七七

第二節　小麥の輸出狀況

如斯生產狀況にある小麥は其の主たる需要地歐洲より遠隔の地にあるがために其の市場は極東卽ち極東露領南北滿洲支那方面に限られ居たりしに一九二〇年に至り從來の情況一變し滿洲產小麥に對し特に有利なる商况現出せり卽歐洲殊に中歐の糧食の危機に加ふるに小麥の主要產地として著名なる北米、南米、濠洲、支那、露西亞の各國の異常の不作は小麥の價格の暴騰を來せり此の時に當り北滿の小麥は稀に見る豐作にして加ふるに二年前より貯藏せるものもあり其の巨量は折柄の余裕ある船腹を利用し遠く海外に出つるに至り（此の購買方には伊太利英國政府の事務官も參加）北滿小麥の聲價漸く知らるるに至れり、然るに一九二〇年の終りより二一年の始に懸けて各國の糧食購買が中止され同時に輸出先諸國の小麥相場下落せるのみならず此の年に於ける滿洲一帶の小麥の不作は價格の騰貴を喚び其の後半期に至りては小麥の歐洲輸出は頗る衰へたり今參考迄に一九一七年八月より一九二二年九月に至る最近五ケ年間に東支鐵道に由りて大連並に浦鹽に輸送せられたる小麥數量を揭出すべし

大連並に浦鹽へ輸出數量（每年八月より翌年九月に至る　一九二二年度は翌年二月迄）

（單位布度）

合計	五、八八〇、四六八

八、南部沿線

双城堡	八一七、〇二三布度
老少溝	一、三五六
陶頼照	二四六、五六〇
三叉河	五二三、五一四
窰門	二六三、三二一
其ノ他各驛	六八、三二〇
合計	一、九二〇、〇九三

二、東部沿線

阿什河	三九一、三六二布度
牡丹江	六五五、四九六
一面坡	四、九八六
烏吉密	一五、二四九
海林	三〇九、六八四

木蘭	一、二〇〇、〇〇〇
三姓	二、〇〇〇、〇〇〇
湯汪河	六〇〇、〇〇〇
佳木斯	八、〇〇〇、〇〇〇
蘇々	二、〇〇〇、〇〇〇
富錦	一、五〇〇、〇〇〇
拉哈蘇々	一〇、〇〇〇
合計	一五、三六〇、〇〇〇

ロ、西部沿線

哈爾賓驛	一、九七五、二六七布度
安達	二、七七〇、七八八
對青山	一〇〇、一二五
宋	一九、四四八
蒙古	九三八、八八二
齊々哈爾	七五、九五八

麥の成育を助け四月一日に播種して八月一日に收獲するか故に成育日數一〇三日南滿の一〇一日に比して遙かに十分の結實を見る

南北滿洲並に熱河特別區域を通じ小麥の總生産高は合計五、三八〇、五〇〇石にして其の大部は所謂北滿洲たる吉林省並に黑龍江省に産し前者は四二〇、〇〇〇石後者は二、八四六、二〇〇石計三、二六六、二〇〇石なり

今地方別に依る北滿小麥出廻高を見るに概約次の如し

呼蘭河流域	一〇、〇〇〇、〇〇〇布度
松花江流域	六、〇〇〇、〇〇〇
西部沿線	八、〇〇〇、〇〇〇
東部沿線	一、五〇〇、〇〇〇
南部沿線	五、〇〇〇、〇〇〇
合計	三〇、五〇〇、〇〇〇

更に此の出廻高を詳別するに

イ、松花江並に呼蘭河流域

新甸	五〇、〇〇〇布度

北滿洲に於ける小麥製粉工業

哈爾賓事務所調査課員　山口寛雄

第一章　小麥

第一節　小麥の産出

現下其の工場數に於て並に其の重要なる點に於て北滿の大工業として油房業に次ぐ製粉業の實狀を明かにするに先ち之が原料にして其の品質漸く世界に認めらるる北滿産小麥に就て概說する所なからさるへからず

世界の重要農産物として右に出づるもの無き小麥は太古「メソポタミア」に其の發生を見てより地味苟も之が發育に適する所今や之が栽培を見さるなく人煙未だ稀なる南北滿洲に於ても支那人の居住增加に連れ其開墾に連れ支那人の常食品たると有利なる農業たるとの二點より日を趁ふて其の作付反別と其の生産高を增加しつつあり

小麥耕作地としての北滿洲は耕地深度五尺乃至六尺の黒土地帶にして深根植物たる小麥の耕作に適することと深度二尺乃至二尺五寸の砂質赤色輕土の南滿洲に優ること萬々たり之に加ふるに氣象の關係は小

目次終

北滿に於ける小麥と製粉工業

目次

序

哈爾賓を中心として北滿に存在する小麥製粉業は油房業と共に地方に於ける工業の双璧で從つて之れが原料たる小麥の耕作乃至內外に於ける同品の需給如何は北滿一般經濟に影響する所尠からざるものがある

本課夙に此方面の調査に志し廣く內外の資料を蒐錄しつゝあるのであるが人手不足の爲め容易に纏まりが附かず此れが完成までには尙ほ多少の時日を要するのである

依つて此際一先づ既蒐の分のみを取纏めて頒布することとした從つて本稿の內容は各部精粗一樣ならず直接企業其他の參考には適せぬかも知れず寧ろ是れより進んで細目の研究に從事せんと欲する人々に對し若干の基礎的資料を提供せんとするものである

謂はば本稿は今後本課に依つて提出さるべき斯業に關する調査書の序編と見ても差支ないのである

大正十二年七月三十一日

哈爾賓事務所調査課長　山內勝雄

哈調資料第四號

北滿に於ける小麥と製粉工業

南滿洲鐵道株式會社
哈爾賓事務所調査課